

野菜畑作生産情報 第4号（要約版）

平成27年7月17日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

- ◎大豆の開花期以降にほ場の乾燥が続く場合は、着莢促進のため畦間かん水をお願いします！
- ◎ながいもの追肥は、新しいもの長さを確認して適期に行いましょう！

○大豆

- 1 生育は、乾燥により平年を下回っている。
- 2 開花期（7月末～8月始め頃）にほ場が乾燥した場合は、着莢促進のため畦間かん水を行う。ただし、排水の悪いほ場では実施しない。
- 3 津軽地域では、開花期に追肥する。

○ながいもの追肥

- 1 地上部の生育は緩慢であるが、地下部は平年並から上回っている。
- 2 早植栽培（頂芽付1年子）の第1回目の追肥時期は、新しいも長5cmを目安とし、第2回目以降の追肥は12～14日間隔で行う。
- 3 普通栽培（頂芽切除）の第1回目の追肥時期は、新しいも長10～15cmを目安とし、2回目、3回目の追肥は10日間隔で行う。

○ばれいしょ

- 1 生育は平年より早まり、いも数、いも重は上回っている。
- 2 収穫まで期間があるほ場では疫病の防除を行う。曇雨天が続く場合には、疫病の発生が急激に増加するため、7～10日以上おきに降雨の合間をぬって予防防除を行う。
- 3 収穫は、茎葉が黄変し、枯れ上がってから10日後くらいに行う。

○ごぼう

- 1 乾燥の影響で生育にバラツキがあるほ場が見られる。
- 2 黒斑細菌病、アブラムシ類の発生に注意し、早期発見、早期防除に努める。

○夏秋トマト（雨よけ栽培）

- 1 生育は順調で、5月上旬定植では2段果房の収穫終期となっている。
- 2 1～2段花房に尻腐果、中位葉に葉先枯れが目立っている。
- 3 灰色かび病、葉かび病を主体に計画的に薬剤散布する。
- 4 追肥及びかん水は、水分要求量が多くなる午前8～9時頃に行う。
- 5 ハウス内の高温に注意し、サイドの開放と併せて、肩換気やツマ面換気も行う。

○メロン（雨よけ栽培）

- 1 着果は概ね順調で、果実肥大は進んでいる。
- 2 収穫は、着果後の日数や外観、試し切りによる糖度・肉質の状況などから総合的に判断し、収穫遅れにならないようにする。朝夕の果温が低いうちに収穫する。

○ねぎ

- 1 草丈は平年並から上回っている。
- 2 べと病、黒斑病等の早期発見に努め、各病虫害に効果的な薬剤を選択し防除する。
- 3 最終培土は、軟白に要する日数を計算し、収穫予定日から逆算して計画的に行う。

◎ほ場を見回るなど農作物の盗難防止に努めましょう。

◎決め手は土づくり！ 日本一健康な土づくり運動展開中！

◎農薬は適正に使用しましょう。

- 1 農薬の飛散を防止する！
- 2 農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てない！
- 3 農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認！

農薬情報(http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)

農薬登録情報検索システム(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)

◎農作業中は熱中症に気をつけましょう。

- 1 日中の暑い時間帯は作業を避けるとともに休憩をこまめにとる！
- 2 通気性の良い作業着や帽子を着用し、汗で失われる水分や塩分を十分に補給する！



報道機関用提出資料	
担当課	農産園芸課 野菜・畑作物振興グループ
担当者	今井 技師
電話番号	直通 017-734-9481 内線 3462
報道監	農林水産部 津島 農商工連携推進監（次長） 内線 3181